

令和3年度 第1回 三種町総合教育会議議事録

- | | | | | |
|---|------|-----------------------|-------|--------------|
| 1 | 開催日時 | 令和4年2月21日（月）午後3時00分 | | |
| 2 | 開催場所 | 琴丘地域拠点センター 小会議室 | | |
| 3 | 出席者 | 三種町 | 町 長 | 田川 政幸 |
| | | 三種町 | 副町長 | 檜森 定勝 |
| | | 三種町教育委員会 | 教育長 | 藤田 良博 |
| | | | 委 員 | 水野 京子 |
| | | | 委 員 | 佐々木 孝一 |
| | | | 委 員 | 工藤 智穂子 |
| | | | 委 員 | 牧野 三千雄 |
| 4 | 欠席者 | なし | | |
| 5 | 事務局 | 教育次長 | 後藤 誠 | 次長補佐 鎌田 誠 |
| | | 次長補佐 | 大高 博充 | 次長補佐 木村 将来 |
| | | 係長 | 児玉 知済 | 教育活動推進員 長浜 中 |
| 6 | 傍聴者 | 9名 | | |
| 7 | 協議案件 | 1) 統合中学校の開校年度と建設地について | | |
| | | ○別紙「意見書」 | | |
| | | ○今後の日程について（案） | | |
| | | ○周知方法 | | |

午後 3 時 0 0 分開会

田川町長 皆様、ご苦労さまでございます。今日は令和 3 年度の第 1 回目の総合教育会議ということで、委員の皆様には大変ご多忙の中、そして今日は大変な凍っている中、このようにご出席いただきありがとうございます。総合教育会議でありますけれども、その前に現在の学校のほうで、それこそコロナウイルスの関係で大変難儀しておりまして、学校の休校、それから保育園の休園等いろいろ経緯がございます。詳細についてはおそらく皆さんお耳にしているとは思いますが、マスコミのほうからも報道があるとお思います。今後も町としてやはり一人感染者が出ると多くの濃厚接触者が出ると認められることで、いろいろ行事のほうにも、それからいろいろな方針のほうにも影響はありますけれども、町としてしっかり対応をして参りたいと、このように考えておりますので引き続きご理解とご協力をお願いしたいと、このように思っております。また、この学校再編計画につきまして、それこそ昨年 1 月に計画を示させていただきましたけれども、それ以降、再編準備委員会、5 回を重ねまして多くの議論はなされてきております。その間、未来の学校を考える会の皆様には貴重なご提言、ご意見をいただきながら委員皆さんで協議をしてきたと、このように伺っております。今日は議事的には統合中学校そのあ

たりの再編計画をしっかりと示すタイミングとなっております。

本来であればもう一月早く決定される予定ではありましたが、それこそコロナの関係で今日まで延びてしまいましたことは、何卒ご理解いただければありがたいと思いますし、今後子どもたちの教育環境をしっかりと整えていくためにも、この会議でしっかりと方針を示していきたいと、このように考えていますので、委員の皆様からは忌憚のないご意見をいただきながら今後の学校再編計画に活かしていきたいと、このように考えていますのでよろしくをお願いします。今日一日大変緊張感のある議論になるかと思いますが、忌憚のないご意見をいただきながらしっかりと方向を示していきたいと、このように考えておりますので委員皆様の活発な議論をご期待申し上げまして簡単ではありますがけれども冒頭のあいさつとさせていただきます。今日はどうぞよろしくをお願いします。

後藤次長 ありがとうございます。続きまして教育長よりご挨拶をお願いします。

藤田教育長 本来は1月に行われる総合教育会議であったのですが、コロナのことに巻き込まれてしまいまして、今日の日になってしまったことをお詫び申し上げます。今日の先ほど行った教育委員

会の定例会ではこのことについて協議をいたしました。教育委員の皆さんも大変頭を痛めて、どこにするかということは大変重圧もあり、判断非常に難しいというお話もあつたのですけれども、今日ご意見をいただいております。今日は総合教育会議でそのことを事務局のほうからお話するわけですが、まだまだ教育委員の皆さんにはもっと話したりなかったというようなこともあるかもしれませんので、どんどんお話いただきたいと思います。また、副町長さん町長さんにもご意見をいただいて、どうぞよろしく願いいたします。

後藤次長 ありがとうございます。次第の4番からにつきましては、町長よりよろしく願いします。

田川町長 それでは暫時私のほうから進行させていただきますので、円滑な審議にご協力をよろしくお願いいたします。それでは次第によりまして進めてまいりますのでよろしくお願いします。次第の4、議事録署名委員の指名でございますが、牧野委員にお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。それでは次第の5、早速協議のほうに入ってまいりたいと思います。統合中学校の開校年度と建設地について議題といたします。これまでの経緯を教育委員会事務局より説明をお願いいたします。

木村補佐

お疲れさまでございます。教育委員会木村と申します。私のほうからこれまでの経緯をご説明いたしまして、その後の教育委員会の話し合いの中身につきましては教育次長より報告していただきたい思います。それでは座って説明させていただきます。今回の話し合いに至った経緯ということで、本町の児童生徒の減少が進む中、よりよい教育環境のための学校再編について検討を重ね、令和3年1月に三種町町立学校再編整備計画が策定されました。計画策定後、町民説明会や町議会の中で統合中学校の建設候補地選定についてもっと十分な協議が必要であることや、他の建設候補地を推薦する意見が出されました。これを受けて三種町教育委員会では6月議会において三種町立小中学校再編準備委員会を設立し、建設候補地選定などについて協議を重ねていくことを説明し、同年6月29日に第1回目の再編準備委員会を開催されております。その後、全5回の準備委員会と現地視察を行い、委員の皆さんに協議を重ねていただきました。その結果につきましては令和3年12月23日に意見書としてまとめられ、近藤国義準備委員会委員長様より藤田教育長に提出がされております。意見書の内容につきましては委員会等でも説明しておりますので内容省略いたします。これを受けまして、統合中学校等の建設地などの案件につきましては12月議会におきまして、意見書を受けて総

合教育会議で建設場所等の決定することを報告しております。以上で説明を終わります。

田川町長 ありがとうございます。ただ今事務局より説明がありました。意見書の内容につきましては、事前に確認をしていただいておりますので、本会議では統合中学校の開校年度と建設地について審議してまいります。始めに教育委員会での協議結果について事務局より報告をお願いいたします。

後藤次長 それでは私のほうから先ほどの教育委員会定例会での話し合いについて内容をご説明いたします。始めに開校年度について協議をいたしました。いずれの候補地についても適地ということで、令和8年度の開校が期待できるということでお話しております。その中でやはり一番大きいところは保護者、PTAの方々からできるだけ早く学校を統合してほしいという強い意見が出されておりました。この件につきましては、準備委員会の中でもそういう記載がありまして、この意見を覆すような根拠は現状では無いのではないかというお話でございました。また、中学校の建設地が1年先延ばしになったということで、当初より1年統合の計画が遅れているのだということで、その件に関しては保護者の方々からちょっと残念だという声が上がっておりました。それを踏ま

えて今後きちんとした状況を踏まえて計画を進めてほしいというご意見がございました。それから敷地につきましては、現状山本中学校につきましては土砂災害の警戒区域があるのだということで、その辺の指摘がございました。それについては、説明の中で令和4年度以降において調査設計とか工事の施工について計画を進めていくということをお話しております。それから琴丘中学校、琴丘中央公園につきましては、現校舎の部分が最適だという意見書がまとまっていることがありまして、それを踏まえて開校するにあたって一旦中学生が中学校を別の場所に移して学習しなければならないとか、そういうふうな不安を聞かれました。また、仮校舎ということもありましたけれども、そういうところを踏まえ、また、別途経費がかかるのではないかとということもありました。それからスポーツにおいては、人間形成が大事であると、そういうことも踏まえてそういうところに建設したらどうかというふうなご意見がございました。それは環境が整っているということが条件だということでございます。それから現状の部活動に対応できるということで琴丘中央公園におきましては野球もソフトも現校舎のグラウンド、そういうところを使えばいいのではないかとということでございましたが、中学校建設において多目的広場の利用方法についていろんなご意見がございました。除外申請がはっきりいくのかとか、それから現状多目的広場を使っている団体

があるので、そういうところを踏まえて慎重に検討していかなければならないというご意見がございました。山中においては、現状野球場がございました。テニスコートもございました。ただ、校舎をグラウンドの敷地内に建てる予定でありますので、前にも問題になっておりましたけれども、グラウンドの校舎の建て方、そういうところの検討が必要だと。それから共励館においては、卓球をその部分でできるのではないかと。また、琴丘も中学校の付近に町の施設があるわけですが、山本においても過去にも山本体育館とか山本野球場、あめふらんど等を使いながら部活動をした経緯もありますので、その辺を有効活用したら部活動もできるのではないかとというご意見がございました。それから通学距離、時間におきましては、子どもたちが毎日通う学校であるのだと、そういうことを考えると通学時間が多くなることは避けたい。また、通学時間の負担がないことが大切であるのだと。また、安全性これも必要でないかということでございます。また、山本中学校を適地とする理由として、中間点とかというふうな部分があがってきておるのですけれども、こういう部分についてはスクールバス等の配車対応でこういう部分はクリアできるのではないかとというふうなご意見もございました。また、その他の部分として今年の冬期間の交通事情を考えると、どちらの中学校になったにしても豪雪に対する手当が必要ではないかというご意見がござ

いました。その中で最終的にこちらは適地であるのだけれども、やっぱりそういう現状の災害の指定があると、場所というのがちょっと不安だというご意見がございました。また、教育効果として交流していく。それから交通性の利便性、こういうところも重視していく必要があるのではないかというふうなご意見がございました。それからもう一人の委員のほうからも交通の便というのは一番大切な部分だということでありましたけれども、どちらの候補にしても長所短所があるので、そういうところをうまく直していかなければならないのだということでありましたが、最終的には毎日通う学校の距離、それから親の負担の少ないところが良いのではないかというご意見でございました。また、もう一人の方は、やはり意向調査で1位だったと。ただ、まずこれはP T Aとかいろんな団体の各地域からの集まりだけの発言なので尊重しなければならない。また、土砂災害は危険な場所を安全にすることが条件ではないでしょうかということであります。それから最終的な意見としては、P T A保護者の皆さんからの早く作ってほしいという意見を尊重しなければならないのではないかなということであります。あと、距離的な部分をクリアする。それから災害地域をどうしていくのか、そういうところが一番話題となっていたところでございます。そういうところを踏まえまして、子どもたちの教育環境については、現状先送りはできないのではない

かということを踏まえながら、やはり子どもたちの数もどんどん
どんどん減っています。教育長からもお話があったのですが、
も、現状今2クラスの学校があるのは山本中学校の3年生だけで
あります。それが、その方々が卒業するとあと三種町の学校では
現状のスタイルでいくと2クラスはできないのだということもあり
まして、そういうところを今後考えていく必要がありますし、
部活動を考えても新年度でも新しいチームができるかできないか、
そこらへん大変不安な子どもたちもたくさんいるわけなのですよ。
子どもたち部活動を通して成長はしますし、せっかくの中学校時
代の思い出が作れない子どもたちも現状出てきておりますので、
そういうところを早めに解消して行かなければならないと思いま
す。また、建設にあたっては財源の問題もありますので、その状
況に応じた有利な財源をうまく使っていくことも必要ということ
でございました。最終的には教育委員会定例会の中でも山本中学
校の敷地内というご意見のほうが多くありまして、そういうふう
な方向で教育委員会の定例会では協議をしております。あと、最
後に災害的な部分で不安があるということですので、必要に応じ
てそういうところは手当てしていかなければならないというふう
なことで話し合いをしているところでございます。以上です。

田川町長

ありがとうございました。ただ今後藤次長より報告がございま

したが、教育委員の皆様より補足やご意見がありましたらよろしくをお願いします。

牧野委員

5人の中で違う意見を出したのは私だけでしたけれども、再度同じような意見を述べさせてもらうことになるかもしれませんが、どちらも適地ということで私は三種町の全体を見ても学校のポジションといいますか、そういうふうな視点で考えました。そういう点で行くとこれからの中学生たちがどういう夢を持ってですね、学校に通うかというふうなことを考えて、やっぱりこれからは交流、どんどんどんどん他地域あるいは外国の人も含めてですね、交流しなければダメだと私は考えております。そういう点ではやはり交通機関のアクセスが非常に。まず三種ではいいほうの地域、そしてなおかつ教育効果が高められるかなというふうな視点が考えられる。そしてまた琴丘地域、自分が琴丘だからとそういうことじゃなくて、インターとか国道、それから下岩川方面、上岩川方面、温泉方面からの交通のアクセスが比較的いいのではないかなと考えて。先ほど保護者の負担とかありましたが、クリアできるのではないかなと考えました。それから昨年の東京オリンピック、パラリンピック、そして今年の 베이징 冬季オリンピック、本当にスポーツが人間形成に与えている影響といいますか、非常に重要だなと。特にスポ少含めてですね、思春期の子どもたちが

よりよい環境でスポーツ環境あるいは部活動環境にもですね、触れる環境非常に大事だなというふうに考え、そういう点ではいろいろな課題があるにしてもある程度部活動の環境が整っている琴丘地域、琴中地域周辺が適地かなというふうに考えました。そしてまた、安全面からいうと、土砂災害警戒区域がいろいろ対策を講じることが可能だとしても、現実としてあるというそういう点なども含め、また冬期間の交通、送り迎えとかですね。また更には山本地域の統合小学校があな地域に建つ予定かなと思っておりますので、そうすると更に交通面で不安があるかなというふうに考えました。授業するにしても小中できた場合、グラウンドの利用とかですね、PTA関係はたしてどうかなということを考えました。そういうふうなことを考えて再度私はこれからの学校をぜひ琴丘地域、琴丘中学校周辺が適地というふうに考えますので、再度同じような意見を申し述べさせていただきました。以上です。

田川町長 はい、ありがとうございます。他にご意見はございませんか。

佐々木委員 先ほどもお話したのですけれども、牧野委員が言うように交流がいいと。じゃあ他の学校は交流できないか、そういうことはないと思います。どこでも交流はできると思います。確かにインターがあることによって、他にも多少便利なのかなと。確かにあつ

て、だからといって他はダメだということはないし、どこもみんなすばらしいね、適地になると思うのですよ。今回八竜の中学校、最終のリストに出てこなかったのですけれども、やはりどこだってすばらしいところいっぱい持っていると思うのですよ。ただ、保護者の意見とか地域の意見とかみんなの中で、1位2位と言いたくないというのもあるのですけれども、そういう2つ候補に絞ったという。ですから決してこれがベストではないです。よりベターだと思います。ただ我々説得しなければいけないのがベターでなければいけないと思います。この間の準備委員会の分科会で私のほうは幼稚園とか保育園を担当したのですが、ほとんどの代表の方ができるだけ早く作ってくださいよと、距離もできるだけみんなに均等になるように、あまり遠くにならないようにということがありました。やはりそれが最終的な選考に結びついてきたのかなと思うのですけれども、やはりそれは尊重していかなければいけないし。あと土砂災害については、先ほども言いましたが最悪どこにでもあるのですよ。あちこち災害だらけですね、日本は。ですが、先ほども言ったのですけれども、活断層だってあるのですよ。一番危ないのが琴丘にもあるし山本にもあるし、八竜のところにはあまり活断層の線がないというのがあるのですよ。ただそういうのを日本人は克服していろんなものを作ってきたと思うのですよ。それは私は障害にはならないと思います。県のほ

うからも山本中学校のほうを見てもらったら（聴取不能）。　　ということはね、それほど支障がないのかなと。ただ、つくるべき最低限度のところ（聴取不能）の問題とか、土砂の擁壁作るとか、そういうことは必要なるにしても、それが障害になることは一切ないと私は思っております。あと、先ほど　言えばですね、当初から山中ありきではなく、そんな状況の中で　やはり２つの中で選ぶとなればね、山本中のところかなと思うのですよ。それがまた今後の校舎、未来の担っていく子どもがたのために、やはり保護者が選んできた地域なのかなと思うのですよ。そういうことで私は２つから選ぶとなれば山本中の場所がいいのかなと思っております。

田川町長　　　　　ありがとうございます。他にご意見はありますか。

工藤委員　　　　　先ほども言っていたのですけれども、本当に難しい選択で、どちらにもいいところがあるし、どちらにも問題があってすごく悩むところで、牧野先生もお話をしていて、どちらの意見もそうだなという。私としては準備委員会が各地域を代表してきた人たちが集まっての委員の協議をする場で、後ろにいろいろな人方の代表が集まった中での第１候補が半数以上が山中を推していたという部分については、やっぱり山中かなというところを考えたと

ころでもありますし、令和８年度の開校を目指すには、琴丘地域だとグラウンドだったり、敷地内に、学校の周辺にグラウンドだったり、体育やるにもすぐ行ける、他の場所に移動したりということをやっぱり負担になると思うので、そういった施設が学校の周辺に全部あるということにおいては、やはり山中がよりベターかなという印象を受けました。山中に建てるにしても先ほどからいろいろ言われている土砂災害だったりレッドゾーンがあるという問題に対しては、やはり保護者としても危険な場所には通わせられないし、その問題はやっぱり元気に行ってらっしゃいと、頑張ってみんなと仲良く遊んでねという感じの、そのクリアすべき改善するところを十二分にやるという前提で、安全を第一に考えてそのクリアできるのであれば山中で、もしそこが無理であれば他のところに候補地を移すという柔軟な姿勢を持ちつつ、その対策はきちんとしていただきたいなというふうに考えています。以上です。

田川町長

ありがとうございました。水野さんいかがですか。

水野委員

とても難しくて、町のシンボルとしての学校なのか、これからの未来の町の発展の中に位置する学校としてのビジョンみたいなのは正直私の中にあまり描けていないし、再編準備の中でもそう

ということテーマにした議論というのが、ちょこちょことはでるのだけれども、なかなかそこがみんなで話し合えるというような状況は多分なかったらというふうに思っているのですね。正直今こうやって急いで再編、学校を建てても、じゃあ20年後子どもたちがどれほどいてとか、結局そこから盛り上がっていくかというもののすごく少なくなって、心細いような数字もたくさん聞いたりするなかで、学校をどうすべきだろうというのを本当に難しいを感じています。そのビジョンが私にもうまく描けていないからそうすると、やっぱり今の子どもたちに最善のものという選択枝になっていってしまうのか。そうだとするとやっぱり中間に近いところというのは、やっぱり子どもたちにとって負担がないのではないかなというふうに考えます。本当に琴丘にしたときにすごくいろんなビジョンが描けていって、学校を中心にいろんな発展が期待できるみたいな、そういうのがあれば確かにすごく推したいなという気持ちにもなったりするのだらうなと思うのだけれども、じゃあ山中と琴中でその差別化はどこまでできるのという、私の中ではまだまだ描きづらいというのはあります。山中は、いろいろ課題はあるけれども、敷地の中で小学校と中学校が共存していくようなイメージというのは悪くはないというか、そういう気持ちもあります。以上です。

田川町長

ありがとうございました。委員の皆様から一通りご意見があったと思うのですけれども、教育長のほうからご意見あればお願いします。

藤田教育長

いずれ当初4つの建設候補地が出ましたが、やっぱりどこもみんないいなと。いいところがたくさんあってですね、これをかなえられない、一つにしていくといったときにやっぱり意見書を作成する場合も、やはり一つにはなかなかできなかったと。やっぱり皆さんこのところは良さそうだけれども、このところは課題なのかなとか、全ての方がここというようなことは、なかなかできなかった協議だったのかなと思っています。ただ、先ほどもお話ありましたけれども、若い方々は現状大変苦しんでいるのかなと。早く統合してスタートしてほしいなと。そういう思いが非常に伝わってきたように思っています。やはり統合の視点は何といっても大切なことは生徒の教育環境を整えるということなので、その生徒の学校生活は今これからどうなっていくのか、そう考えるとやっぱり複数のクラスがあれば一番望ましいことだよなとも思ったり、部活動でもようやくチームのメンバーが成り立つ。成り立たないで2校で合同チーム作ってようやくチームが結成できたり、もう2校でもダメだという、そういう競技もあったり、はたしてこの状況をずっとこのまま黙って見ているのは、はたして

どうなのかなと。そういう若い方の意見も踏まえてまた学校の様子を見ていると、やっぱり責任、そこをしっかりと考えて取り組んでいかなきゃいけないなと私は感じました。だから令和8年、当初より1年延びた感じですけども、いろんな協議でいろんなことがわかってきた中で、決して無駄ではなかったと思うのですけれども、令和8年にやっぱりスタートを迎える、今タイミングにあるのではないかなとも思っています。そうしたことを考えたときに、どちらもいいのだけれども、しかし令和8年でより確実にスタートできる場所はどちらかなと考えたりすると、琴丘中学校の場合は非常に窮屈な、もしかしたらずれ込む日程になったり、不確定な要素もちょっとあるのかなと感じたり、また校舎建設の場所も本当に今の校舎がベストという感じであれば、それに伴う課題もいくつかあるのかなとか、施設の面でもグラウンドのこと、どういうふうに決着がつくか。そこのところもこれから解決していけばいいことかもしれませんけれども、令和8年度スタートを考えると、ちょっとそういう不確定さよりは、山本はどうかと。地盤は、山本中学校建てる時の地盤調査では大丈夫だという判断の書類もあり、ただ、周りの土砂災害のことが問題になっているわけで、いろんな関係機関から聞くと、災害というのは起こっていないとか、やっぱり補強すべきかもしれない、そこの判断はこちらに委ねられているわけで、でも現実というと避難訓練とかで対

応可能なのだとか、だけれども今生徒がいるのだから何とかしなければいけませんよね、みたいな気持ちになるのですよね。そういう問題はたしかにあるのですけれども、解決できないわけではないと思っています。あと、意見書にある準備委員の方々の意向調査ですね、こういうふうな結果が出てるのを、それを覆すだけの琴丘があるのかと考えるとなかなかない。ベストはないけど、山本のほうがというふうな結論に自分の中ではなっています。

田川町長 ありがとうございます。副町長はありますか。

檜森副町長 私の立場はオブザーバーという立場で参加させていただいておりますけれども、私から一言意見を述べさせていただきたいと思っています。まずもってこの小中学校再編の準備委員会の方々からは5回という回数を重ねていただきまして、大変貴重なご意見をいただいたことに感謝申し上げるところであります。学校の再編それから統合は町にとって本当に一大事業だと思っております。学校の建設をどこにするかという大変難しい問題でございますけれども、そこにはそれぞれ個人的な感情、それから地域の感情もあると、そういう思い入れがいっぱいあると思っております。それが複雑に絡んでいることが難しくなっているというを理解しております。しかしながらやはり意見書にありますとおり、ここ

で何が一番大切なのかというところで考えてみますと、やっぱり今少子化の時代を解決していくには、最も大切なこと。これは子どもたちの現状を見て将来、また将来を見据えた上で考えれば、早期に良い教育環境を整えてやるというところが私たちの役目かなと、務めかなと思っております。先ほどらいご意見をお聞きしていますけれども、両方ともに良い点、そして課題もございます。この課題については両方あるわけですが、やはりひとつひとつ解決策を今後検討していくというところで、行政といたしましては建設に関してはしっかりと対応をしていかなければいけないと考えているところでございます。こういうことで建設地については再編準備委員会の委員の皆様の意向調査での過半数を占めたというところを尊重してあげなければいけないと思っております。これがまた頓挫してしまいますと、千年来続けてきていることもまた0からなるのか、1からやり直さなければならないということになりますので、それもまた子どもたちに大変負担がかかることだと思っております。ということで私の意見といたしましては、意見を出されております山本中学校敷地内に令和8年度開校という目標で進めていくという意見に賛成いたします。以上です。

田川町長

ありがとうございました。それでは皆さんからご意見をいただ

いたので、私のほうからも少しご意見を申し上げたいなと思います。この件に関しては、本当に合併以来、大変長い間協議、議論されてきたものであります。4年前に私が町長に就任してからもすぐに手を付けるべき課題ではありました。ただ、当時の児童数、生徒数いろいろ勘案した中で、過去の会議ではもう少し待った方がいいのではという意見の中で進んできたところがあります。ただ、実際この4年間の出生数が明らかになった際に、このまま年月を過ごしていく分にはやはり統合して早く子どもたちの教育環境を整えてあげる方向、道筋をつけるべきではないかというのが私の個人の意見でございます。その中でそれこそ在り方検討委員会、それから再編準備委員会のいろんな議論を得ながら、まずこういう方向にきたということは、大変私はうれしく思っておりますので、ぜひこれを保護者そして、そういう立場としてもぜひ成就していきたいなと思っております。その中でやはり最終的には建設地、統合再編時期、そういうところには皆さんいろんなご意見や思いがあるのは十分承知しておりますし、誰かを立てれば誰かが立たないという部分もいろんな経験の中でわかっております。今回の件に関しては、やはり現場というか、預かっている子どもたち、そしてそれを見守る保護者、PTAの方々の意見はかなり言葉の比重としては大きいものはあるのではないかなと、このように思っております。町としてそれをどういうふうな形で実現し

ていくかというところに焦点がいくのだろうと思いますし、三種町といってもかなり広いエリアの中でここというのはなかなか厳しい意見の集約だと思います。そういう中で多くの委員の皆様からのご意見、最大数というか、そういうところを見ると先ほどの議論に行きついていくのかなと感じはしております。ただ、その中でも当然危険な場所だとか、そういうところに指定されているのは町としても十分認識しておりますし、いろんな方からのご意見の中にも盛り込まれております。そこをしっかりと対応していくことは、可能だというふうにも伺っておりますので、そういう安全な教育環境、充実した教育環境をしっかりと提供していける条件があるのではないかと考えております。先ほど水野委員が申し上げたとおり、新統合中学校のビジョンだとか、そういうところは建設地が決まって、それこそ環境が、こういう環境ですよと見えてきた際にその環境を利用した教育方針というか、そういうビジョンを描くのも一つのやり方でありまして、牧野委員が申し上げましたとおり、そういう運動環境、そういったところが整っている琴丘地域、それも一つの選択枝であると思います。そういうもろもろの皆さんのご意見も聞いてますし、昨年一年間の再編準備委員会の委員の皆さんの意見を聞いて、私の中で考えているのは、やはり一カ所に決めるというのは重い任務だと思っていますけれども、最終的には決めないことには進めないと。そうい

う中でやはり大きな決断をするには皆さんのご意見があった山本地域、そういうところが多分総合した勘案の中で適地なのであらうと私は思っております。この意見にもいろいろ議論は必要かなと思いますけれども、先ほど教育長が申し上げたいろんな児童生徒の推移だとかを見るところに言われた、統合中学校は令和8年にはスタートしたいというような教育的な観点からの意見がありますので、やはりそこは一つ見守っていくべきだと私は思っておりますので、そういったところ時間的な制約もある中で決めるのであれば、やはり皆さんの多数を占めた山本地域がよろしいのではないかなと、このように私は感じておるところでございます。皆さんからいろんなご意見をいただきましたが、他に何か補足だとか、考えていることとか、そういうのがあれば遠慮なくご意見を言ってもらいたいと思います。体勢的には山本中学校かなという感じなのですが、何かご質問とかあれば。私どもからは、一番懸念されている土砂災害警戒区域というかそういう安全面とか、それから交通というか通学だとかそういうところの部分、そういうところの事務局側のご意見というのは多分議論されたと私は思っているのですけれども、そのあたりは大丈夫なのですよ。

藤田教育長

意見書で記入されていますけれども、4ページのところですね。山本中学校敷地内（2）課題と解決策というのがありますので、

そこには今お話あった土砂災害のことについては、やっぱりしっかりとそうなれば手当てしたり、より慎重にやって、あくまでもダメだとなればまた厳しいかもしれませんが、それを良い方向にやっていけるのであればそういうふうやっていきたいなと思ってますし、現状はいろんなところから意見を聞いて、そして対応できるという判断ですから、そういう方向で進めたいと思いますし、それからグラウンドの広さとか、ロータリーの問題などについても指摘がありますので、それは具体的にどういうふうなところに建ってどうなっていくかということで、そこはまだはっきりはしないのですけれども、進めていく上で検討をしていくべきことかなと考えております。あと議会でも指摘がありましたけれども、信号機のことについても、それも結構時間がかかると言われていますので、そこも検討を進めていくということになるかなと思っております。今話題に出てきた課題等について、ここにも書かれていますので、それをしっかりと検討、そして進めていくということになる。

田川町長

この中には課題ということで、それを対策工事をするることによって、そのあたりのリスクというか危険がグッと下がるというような見立てがあるというようなことでよろしいのですよね。

木村補佐 事務局のほうから。県と話し合いをした内容では、現在特別警戒区域で通称レッドゾーンというところに指定されている部分については、県と協議をしながら対策工事をしていけば特別警戒区域は外すことができるということで県のほうから回答をいただいております。ただし、簡単な工事とか、こちらで勝手にやればダメだよということで、そこはきちんと県の担当者に工法とかきちんと内容を精査した上で対応してくださいと言われております。

田川町長 私の認識だと警戒区域というのは将来小学校の体育館になる場所になるのですよね。中学校ではなくて。そういう意味では対策に要する時間もあるという認識でよろしいですよね。ただ、現実には今学校として皆さん通っている学校なので早いに越したことはないかと思えますけれども。そういう部分の対応だとかはしっかりできるというようなご意見というか、裏付けがあれば大変力強いかなと思えますけれども。

木村補佐 いずれこちらのほうは、今お話にも出ましたように現状が中学校、それから今後は小学校としていくということで、現在生徒が通っているところでもありますので、これは早急に原因とかそういうのは来年度以降も手をかけるように考えております。そのあと具体的な調査なり工事なりはまたその都度提案していきたいな

と思っております。

田川町長 他にご意見ありますか。建設の工期というかスケジュールとかは、皆さんにちゃんと示されてご判断という捉え方でよろしいですよね。

木村補佐 はい。最初の再編準備委員会の最初の段階で、まずざっくりとではありますが計画についてお示しをさせていただいております。基本的には最初に基礎調査から基本設計。そのあと実施設計。それから建築工事には2年程度。設計はそれぞれ1年程度ということで、大体4年にかかるのではないかなということで概算しております。来年度から基本設計に入っていくとすれば令和7年度には完成はできるのではないかなと思います。

水野委員 ずれているかもしれませんが、もし本当に山中というところでもう決まって進むのであれば、やっぱり反対をされている人のお話の中には、本当にここは危険なのだというをおっしゃる方はたくさんいるわけで、そこを不安に思っている人はたくさんいるので、変な話、誤解を重ねるようなことというのがすごく良くないと思っていて、もう逃げも隠れもしません、これだけ安全ですという保障というか根拠というか、そういうものは堂々

と示すべきだと思いますし、それでも反対する方はいるかもしれないけれども、こうだから大丈夫だからちゃんと見切り発車じゃなくて進めるんだということは、表示する義務があるのではないかなと思うし、山中のちょっと閉ざされた閉塞感みたいなイメージってどうしてもあると思うのですけれども、だからたくさんスクールバスがやってきたときに、あそこ大丈夫なのというイメージが確かにあると思うのです。そういうことに関しても、もしなんかプロがこうしてこうしてこんな設計をすれば何とかなるのだよというみたいなのがあれば、早期に示していくと皆さんが安心してというか、それならばという気持ちになるのかなと思ったり、そんなことを思ったりします。以上です。

田川町長

いずれにしても決まれば説明会をして、皆さんにいろんな情報を提供していくことになるということですし、町としてはやっぱり決まった方向でご理解をいただく。いろんな不安があると思うので、そこはしっかりと説明をしていくというスタンスで行きたいなと思っています。他にご意見がなければ、皆さんからご意見を頂戴いたしましたし、いろんなご質問もありましたけれども、総合的にというか、皆さんのご意見を聞く中では、建設地としては山本中学校を次の統合中学校の建設地としたいというご意見が多数のようです。これで進めてもよろしいでしょうか。

出席者全員 異議なしの声。

田川町長 建設地は現在の山本中学校敷地とさせていただきます。開校年度の目標なのですけれども、先ほど教育長からもご意見があった令和８年度開校という方向で進めたいと思いますが、こちらについては皆さんよろしいですか。

出席者全員 異議なしの声。

田川町長 令和８年度開校を目指して山本中学校敷地内を整備していくと、そういう方向で決定したいと思います。よろしくお願いします。そういうことで事務局にはご難儀をかけますけれどもよろしくお願いします。

田川町長 それでは、次第の６、その他に入ります。教育委員会事務局より連絡等がありましたらお願いします。

木村補佐 本日は大変ありがとうございました。次回の第２回の会議のご提案ということで、第２回の総合教育会議を３月に開催させていただきたいと思っています。今回、教育大綱及び社会教育中期計

画が新しい計画にスタートしますので、この教育大綱は総合教育会議での決定事項となっておりますので、こちらのほう年度末のお忙しいところではありますが、ご審議いただきたいと思います。日程については、先ほどの定例教育委員会で3月24日を第1候補としましたが、後で町長、副町長と日程を調整させていただいて、2月28日の臨時会までにはご報告させていただくということでよろしいでしょうか。

佐々木委員 3月24日はまだ決まっていないということでしょうか。

木村補佐 はい。今のところ町長と副町長の日程は空いておりましたが、問題なければそこで押さえさせていただきます。当日は定例教育委員会も行いますので、後で改めてご通知させていただきます。事務局からは以上です。

田川町長 ありがとうございます。委員の皆さんから何かあればお願いします。

佐々木委員 この後3月に三種町町立学校再編整備計画の報告会と書いていますよね。3月からやっていくということですか。

木村補佐 申し訳ありませんでした。そちらのほうの説明を忘れておりました。今後予定として3月に行っていきたいということで、前回の12月議会でも少しお話させていただきましたので、それで行きたいと思っております。ただ、日程については今このとおりコロナウイルスが非常に出て難しいところがあるのですが、それも勘案した上で広報みたね3月号等で周知したいと考えています。

佐々木委員 それで全地域対象として1回開催ということは地区ごとに開催というわけではないということですか。

木村補佐 今まで再編準備委員の中でも各地域の代表の方からも来ていただいた話もありましたので、密には気を付けながら全町で1回ということで、年度末皆さんお忙しいと思われまいますので、それで行らせていただければなと思っております。

田川町長 他にありませんか。それではご判断を皆さんにお願いして大変心苦しいところではありますけれども、決めさせていただきました。町としてこれに向かってまた努力してまいります。いろんな越えなければいけないハードルもまたあろうかと思っておりますけれども、しっかりと対応をしていきたいと思っておりますので、引き続き委

員の皆様にはご提案やご意見、ご指導をいただければありがたい
と思います。以上を持ちまして三種町総合教育会議を閉じたい
と思います。本日はどうもありがとうございました。

(午後 4 時 9 分閉会)